このコーナーで取り上げてほしい方やサークルをご紹介ください。
詳しくは役場企画財政課企画係☎482-2913（課直通）まで。

がんばっているあなたがすき

シリーズ・ひと

やり応えがあり、極めたくなりました

北海道地区吟道大会に出場した 西山 夏枝（夏山）さん（27歳・美里5）

漢詩や和歌などを独特の節回しで吟ずる「詩吟」。5月22日㈰に札幌市で行われた北海道地区吟詠大会（㈳日本詩吟学院岳風会主催）に、東北海道岳風会代表として出場したのが西山さんです。

―東北海道岳風会は、㈳日本詩吟学院岳風会の釧路、根室、中標津、北釧路（弟子屈）の4つの支部が集まったものです。この4支部合同で、北海道地区吟道大会出場をかけたコンクールが行われました。50人ほどが出場したのですが、光栄なことに代表4人のうちの1人に選んでいただきました。

若い方で詩吟に親しんでいる方は珍しいように思いますが、詩吟はいつごろ、どういったきっかけで始めたのですか。

―詩吟を始めたのは22歳のときです。同じ職場の方に誘われて、北釧路支部所属の弟子屈吟詠会（加藤ノブ子代表）に行ってみました。元々声が大きい上、加えて大きな声を出すのが好きという単純な理由から、とりあえず始めてみたのですが、始めてみたらやり応えがあり、極めてみたくなりました。

詩吟の魅力は、どのようなところにありますか。

―詩の解釈は実はとても難しく、作者一人一人が持ついろいろな思いを理解した上で、私も詩の内容に思いをはせ吟じています。これはとても大変ですが、とても楽しいものです。また、普段はそんなに大きな声を出す機会がありませんが、詩吟のときはお腹から声を出すので、ストレス発散にもなります。頭も心も体も全て使うというのが、詩吟の魅力ですね。

大会に向けての意気込みをお聞かせください。

―全道大会出場は初めてのことですので、とても緊張すると思います。でも、いつもどおり吟じて、普段の練習どおりの力が出せたらいいと思います。

今後の抱負は。

―詩吟はとても楽しいので、これからも長く続けていきたいです。また、楽しいばかりではなく、大会や昇段試験など苦しいこともありますが、極めたいと思って始めたこと。現在は「中伝」という4段と5段の間の階級なのですが、もっと上を目指していきたいと思っています。

ぼくのゆめ わたしのゆめ

摩周丘幼稚園のおともだち

たなか　かれん ちゃん（5さい）

スイートプリキュアのキュアリズムに　なりたいの。いつもは　ケーキを　つくっていて　わるものが　きたら　へんしんして　たたかうんだよ。

わたなべ りょうへい くん（5さい）

おきにいりの　あおいバットで　やきゅうをしているよ。おおきくなったら　やきゅうせんしゅに　なりたいな　ファイターズに　はいるんだ。

We are enjoying !!

サークルおじゃします！

弟子屈宝生会

代表・加藤　ノブ子 さん

会員・6人

弟子屈宝生会の皆さん
右から2人目が代表の加藤さん

弟子屈宝生会は、日本の伝統芸能である能楽を学ぶサークルです。さまざまな流派がある中、皆さんが学んでいるのは「宝生流」という流派のもの。設立は1950（昭和25）年ですが、それよりさらに前の1941（昭和16）年に、謡（能楽の舞に添えられる歌謡）の愛好会としてスタートしたとのことですから、今年で70周年という息の長いサークルです。1990（平成2）年には、町の文化奨励賞を受賞しています。

能楽と聞くと難しそうな感じがしますが、強く誘われて…など会員の皆さんの入会のきっかけもいろいろ。でも、能を学ぶ方が知り合いにいた、学生時代に別の流派の能楽を習っていた、よく公演を見に行くなど元々好きだったなど、能楽を身近に感じていた方が多いようです。とはいえ、学び始めてからはやはり苦労も多いようですが、始めたらやめようとは思わないほど魅力的だと会員の皆さんは話します。

「能楽の世界は『日常』ではないからいいのだと思います。また謡は言葉がとてもよく、500年も前の人たちの物語だけど古くない。過去の人たちの喜怒哀楽を共有できる喜びがあります」と話すのは岩田さん。小川さんは「私は謡は苦手だけど、仕舞（謡をバックに舞うこと）が好きなんです」と言い、道外からの移住者である須藤さんは「弟子屈に来てまた能楽を学べるとは思ってはおらず、うれしかったです」と話してくれました。シテ（主役）やワキ（シテの相手役）といった演者や、地謡（謡を担当する人）、囃方（笛や鼓などを演奏する人）など、学ぶことは多岐にわたりますが、その中で好きなもの、得意なものを見つけられる喜びもあるようです。

お稽古の様子

代表であり、皆さんの指導を行う加藤さんは「能楽は簡単ではありませんが、古来からの伝統と落ち着きを感じられるとてもいいものです。ぜひ1人でも多くの方に親しんでいただき、長く続けていただきたいです」と話していました。興味のある方は、加藤さん☎482-2515まで。